

令和6 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和7年2月8日

法人名

園 名

学校法人仏光学園

認定こども園ぶっこう幼稚園

まとめ

全体平均

3.56

第2章第2節 乳児期の園児の保育	集団生活の中でも一人ひとりに寄り添い、欲求を受けとめ信頼関係を築くことにより、情緒の安定や子どもたちからの意思表示、発語への促しに努めた。又、それぞれに合った基本的生活や運動環境への配慮を心がけた。日々の遊びや活動では五感に触れる経験ができるよう、関心や意欲が持てるよう働きかけながら保育をすすめていった。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	一人ひとりの成長に合わせた基本的生活習慣の援助に努めた。又、丁寧にに関わりを持ち信頼関係を築き、遊びの共有や提供から子ども自身での遊びへの意欲や友だちへの関心に繋げていった。今年度はままと遊びやごっこ遊びを好む子どもが多く、保育教諭が見守り仲立ちとなる中、場面に合ったやりとりや模倣遊びなど言葉や表現の獲得、友だちとの共有遊びへと広がった。年間を通して取り入れてきたサーキット遊びは個々の運動能力の発達に大きく繋がった。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	行事に向けての取り組みの中で、理解する力や経験などに個人差が見られることもあるが、その子なりの頑張りを認めるようにした。そうすることで、自信を持って活動に参加できるようになっていった。また言葉で気持ちを伝える事の大切さを伝えたり、場合によっては伝え方を一緒に考えたりし、相手の気持ちに気付けるような声掛けもしていった。今後は自分のイメージを言葉だけでなく動きで表現出来るような機会を作り、表現を楽しめるようにしていきたい。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	保護者と連携を取り、子どもたちの体調の変化や家庭状況、衛生管理、環境などに配慮しながら職員間で把握、見守ることで日々協力し保育をすすめている。個々を認め子どもの育ちに合った援助や声かけ、落ち着いて過ごせる遊びや生活スペースの提供を心がけ、教育、保育に努めている。
第3章 健康及び安全	衛生管理や安全管理については、職員一人ひとりが十分に知識を持ち、対応できていると言える。しかし、園全体で共有が足りず、職員毎に対応が異なることもある。細やかなミーティングやマニュアルの見直しなどを行うことで、共通理解に努めたい。また職員自身が他人任せにせず、「自分で」という意識を持つことも必要である。
第4章 子育ての支援	一人ひとりの保護者に対して丁寧に对应し、信頼関係を築き、連携が取れるよう努めてはいる。しかし園内外を問わず、保護者の方から職員に声を掛けやすい雰囲気を作れているかについては課題が残る。園が保護者にとって、入りやすい、温かい場所となるよう、子育て支援の担当者だけでなく全体で取り組む必要がある。
第5章 職員の資質向上	職員は積極的に外部研修に参加し、それぞれの資質の向上に努めているが、個々が研修で得た知識を全体で共有することは、昨年に引き続き課題となる。キャリアアップを修了した職員が全体会議で研修内容を発表したり、自分が講師となって研修を行ったりと、他の職員に知識を伝える場を設けるなど工夫をする必要がある。職員同士が自由に意見を述べ合えるような組織作りを目指していきたい。
総合	職員は皆、子どもや保護者と丁寧にに関わり、信頼関係を築き、子どもたちが安心して園生活が送れるように努めている。また認定こども園への移行時の課題であった幼児と乳児の職員間のスムーズな関係を構築するという点は、特に行事運営について良い方向に進んでおり、充分協力して行えている。職員個々では進んで研修を受講し、自己の知識や技術の向上にも積極的である。しかし園全体で意見交換をしたり、共通理解を図ったりすることがまだまだ不得手である。園内研修などを実施したり研修内容を発表したりといったそれぞれの持つ力を全体に繋げられるような環境作りをすることで、職員皆が一つの目標に向かっていける園づくりができるのではないだろうか。来年度は職員同士がより深く対話し、皆で同じ方向を向いていけるよう尽力したい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	3.87
「3歳未満児保育」	32	3.84
「3歳以上児保育」	53	3.42
「教育保育の配慮事項」	16	3.81
「健康・安全」	29	3.45
「子育ての支援」	15	3.33
「職員の資質向上」	9	3.22
計	169	3.56

データグラフ

